

第3次雲南市総合計画策定に係るタウンミーティング（地区別意見交換会） 開催結果

■ 開催概要

開催日	開催場所	参加者（市職員を含む）
令和6年7月12日(金)	掛合交流センター	29名
令和6年7月17日(水)	加茂交流センター	31名
令和6年7月18日(木)	木次総合センター	25名
令和6年7月22日(月)	大東地域交流センター	40名
令和6年7月23日(火)	三刀屋交流センター	37名
令和6年7月24日(水)	吉田健康福祉センター	24名

計 186 名

■ 次第

1. 開会
2. 基本構想・基本計画の検討状況についての説明
3. 意見交換（ワークショップ）
 - ・12の施策に対する意見
 - ・重点事業（注力する取り組み）のアイデア
4. 閉会



■ 意見交換（ワークショップ）

< 基本構想について（主な意見） >

- ・文字が小さい。文字量を減らす検討を。
- ・ステージ3の考えに至った背景・前提が伝わりにくい。
- ・子ども向けにも分かり易いものがあった方がいいのでは。
- ・ろうあ者は文章が読めない場合もあるということを知ってほしい。キーワードだけでも手話イラストが描かれていると、ろうあ者にも配慮している姿勢が（一般の方にも）伝わる。

< 基本計画（12の施策）について（主な意見・アイデア） >

01. みんなが主役の自治のまち（協働・自治・コミュニティ）

- ・若い方の負担になり過ぎず、楽しめるような仕組みにしてほしい。
- ・「みんな」の中に高齢者の役割が見えにくくて残念…。
- ・クラウドファンディング（応援寄付）を積極的に活用し、応援文化を強化する。
- ・子ども食堂ならぬ「じじばば食堂」もしくは、子ども食堂と一緒にあった場があるといいと思います。

02. どこでも安心して暮らせるまち（交通・インフラ・土地利用・防災）

- ・交通弱者の方への支援策拡大、タクシー業者の支援、ドアツードア、ライドシェア。
- ・空き家バンクの農地、山林版。
- ・手続きや制度の緩和、行政が一括管理、個人では限界あり。

03. みんながずっと元気なまち（保健・医療・福祉）

- ・担い手のシェア、レンタル社員。
- ・障がいを越えた繋がり（広域福祉会）の活動の継続、健常者と一緒に活動したり、イベント企画する機会をつくったり増やしたり。
- ・オンライン受診、オンライン薬局。

04. みんなで子どもを育てるまち（結婚・出産・子育て）

- ・出会いの機会の創出イベント。
- ・子育て世代への経済的支援（負担を減らす）お祝い金・助成金等。
- ・雨が降っても遊べる場所づくり（遊具も含め）。
- ・子育てを一緒にしてくれる地元のじいじ・ばあばとの繋がり。

05. 人の輪が広がるまち（移住定住・人材還流・関係人口）

- ・おためし移住。
- ・生活実態に対応した居住環境づくり（二拠点居住）域内での住環境移動が可能な場づくり。
- ・市民農園をつくる→交流の場にもなる。
- ・働く場・住む場をセットにした発信・支援。働くところ・住むところまるとサポート。

06. 心の豊かさを実感できるまち（スポーツ・文化）

- ・部活動の地域移行にあわせた外部人材（移住者）導入。
 - ・幼児期のスポーツへ繋がる機会。
 - ・スポーツを安全に楽しめる（暑さ）対策、環境づくり。
 - ・“演劇のまち雲南”を地域ブランドとして発信（市民劇、高校演劇）。
-

07. ふるさとを学び育つまち（教育）

- ・雲南に大学をつくる。自由に学べる。どこまで学ぶかも自分で決められる。
 - ・大東高校の魅力化。スポーツ・文化の部活で魅力アップ（レスリング・鉄道研究会など）。
 - ・教育の場を利用した地域内の多世代との繋がり。
-

08. チャレンジが生まれるまち（人材の育成・確保）

- ・チャレンジしたいと思うことをメニュー化して体験できる仕組み・イベント。
 - ・すでに起業、チャレンジしている人との交流の場を設ける。
 - ・今までの成果やチャレンジしたい内容の公開、手上げで受け入れたい企業や組織の募り。
 - ・多分野、多様なチャレンジ→地域や社会実態による特性はあるはず。もう一歩踏み込んだ大枠を示せるとよい。
-

09. みんながみんなを大切にすまち（平和と人権/多様性の尊重/多文化共生）

- ・主に学生が地域に出て、自分の興味のあることや自由に学ぶことが出来る仕組み。
 - ・多文化の祭り。
 - ・多様性を認め合える町に。大人にこそ教育の場が多いとよい。
-

10. 挑戦し活力を産みだすまち（産業経済）

- ・市内・企業間人材マッチング。
 - ・神原企業団地第2期B工区（3.7ha）開発に着手。ふさわしい企業を誘致する。
 - ・「産直市場」振興。かつての産直王国雲南を復活。畑が身近にある暮らしの良さ（食料自給、頭を使う、健康にも良い）。
-

11. みんなのたからを誇るまち（観光・ブランディング）

- ・週末だけの農業体験（休耕地などの利用）普段は管理してもらえる、農業の仕方を教えてもらえる、家庭菜園程度（チャレンジの予算利用？）。
 - ・出雲大社、松江の観光地との連携。
 - ・二次交通と宿泊（シェアサイクル・カーシェア）必要。
-

12. 自然の恵みがめぐるまち（自然環境・エネルギー・循環型農業）

- ・ごみの減量やりサイクル・分別を遊びながら学べるツールの導入。
 - ・人が自然と調和していくためには獣害対策が必要。
 - ・一次産業を大切に！廃れていくと土地が荒れていく。農業のDX、里山と森林の住み分け
⇒本来の生態系を取り戻していく。
 - ・竹を使った産業はできないだろうか。ラーメンのメンマ、炭、加工品、燃料等。
-